

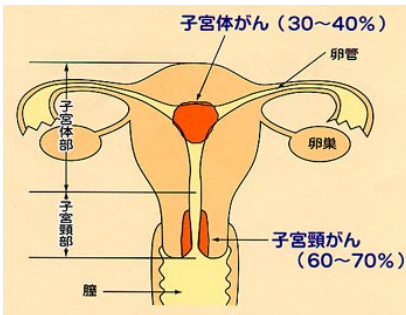


# おやこ通信

## 第17号



今回は最近話題の「子宮頸がんの予防ワクチン」についてです。「どの程度予防ができるの?」「接種の対象者は?」「いくらかかるの?」などの質問も聞かれます。今回はよくある質問をQ&Aでお届けします。



### Q.子宮頸がんってなに?

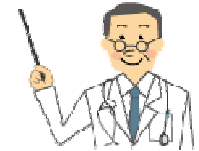
#### A.ウイルス感染が原因で子宮の入口にできるがんです。

子宮がんには子宮の入口付近にできる「子宮頸がん」と子宮の奥にできる「子宮体がん」があります。ホルモンが関係する子宮体がんに対し、子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が原因となって発症します。HPVは多くの場合、自然に排除されるのですが、一部は感染が持続し、前がん病変を経てさらにその一部ががん細胞に変化します。

### Q.子宮頸がんをおこすHPVってどのようなもの?

#### A.主にHPV16とHPV18ががんに関連の深いハイリスクHPVです。

HPVは100種類以上ありますが、女性生殖器関連のHPVは40種類前後です。そのうち、ハイリスクとローリスクに分けられますが、ハイリスクHPVは10数種類あります。中でもHPV16・18ががんに関連の深いハイリスクHPVです。



### Q.ワクチンの効果は?

#### A.接種をすることで発がん性HPV16・18の感染はほぼ100%予防できます。

今回、この2種類に対するワクチンが日本で発売されることになりました。ワクチン接種により、HPV16・18に対する予防効果は約100%で、日本人の70%の子宮頸がんを防ぐことができます。ワクチンの効果期間は現時点では7年程続くことが確認されていますが、今後も経過観察を続けることにより、さらなる延長も期待されています。

### Q.ワクチンをうてば、誰でも予防できるの?

#### A.すでにウイルスにかかっている場合、効果はありません。

ワクチン接種前から感染している発がん性HPVを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療をすることはできません。そのため、まだ感染の可能性のない(性経験のない)10歳以上の女性への接種が最も有効です。また、ワクチンを接種してもすべての発がん性HPVの感染を予防できるわけではありません。接種後も定期的ながん検診は必要です。



### Q.接種方法や費用は?

#### A.詳しくは新城市のホームページでご確認ください。

通常0、1、6ヶ月後の3回、肩に筋肉注射をします。費用については市の助成がありますので詳細は新城市のホームページでご確認ください。